

佐竹南家御日記 第八卷

自享保元年 至享保八年

「佐竹南家御日記」は湯沢の所預であつた佐竹南家の御用所において天和二年（一六八二）から慶応四年（一八六八）まで書き継がれた公用日記である。地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象など詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料である。本書は、享保元年（一七一六）から享保八年（一七二三）までの八年分を収録したものである。

○御林（南家御屋敷裏山）へ山菜採りに入る者がいるとの報告があり、今後そのような者には鉄砲で撃つと町々へ申し渡す。（享保元年三月）

○公方様（七代將軍家継）が先月晦日に御逝去なされたこと早飛脚によつて知らされる。これにより普請、鳴物等停止のこと仰せ渡される。（同年五月）

○久保田へ寒中の狐の肝を差し上げるようにとのお触れがある。（享保二年十二月）

○蔵内村から、船頭市郎兵衛の舟が八幡舟場付近で破船し、米三百俵を流したとの連絡がある。これを機に川筋の普請が行われる。（享保三年三月）

○公方様（八代將軍吉宗）の若子様が源三様と申されることから、その名は「法度」甚蔵、新蔵など言い間違えやすい名前が改名するようにとの通達がある。（享保四年四月）

○前年の不作により、松岡村や鮎川村などから百姓の欠落の報告がある。また、村々からは困窮により助成願う口上書などが出される。（享保五年二月）

○晩五ツ（午後八時頃）岩崎村が火事にて一郷のほとんどが焼失する。（享保六年四月）

○湯沢近辺の郷人から、烏やトキが稲を踏み迷惑しており鉄砲で撃つてもらいたいとの願い出がある。月末にはトキを三十羽駆除したと報告がある。（同年六月）

○幕府の探葉使丹羽正伯が薬草御用にて当地方を訪れた。湯沢に一泊し、小安から駒ヶ嶽に登つて直々仙台へ向かわれた。（同年閏七月）



待望の「第八卷」刊行される!!

- ◎A5判・上製・布クロス装・函入
- ◎本文Ⅱ七八六頁
- ◎二五〇部出版
- ◎定価八、〇〇〇円（税込み）

◎発行＝湯沢市教育委員会（〒012-0105 秋田県湯沢市川連町字上平城120）
TEL 0183-42-5810 FAX 0183-42-2670

佐竹南家御日記第1巻	天和 2年～貞享 3年	8,000円
第2巻	貞享 4年～元禄 4年	8,000円（品切れ）
第3巻	元禄 5年～元禄 8年	8,000円
第4巻	元禄 9年～元禄 12年	8,000円
第5巻	元禄 13年～元禄 16年	8,000円
第6巻	宝永 元年～宝永 5年	8,000円
第7巻	宝永 6年～正徳 5年	8,000円

（頒布価格は全て税込み）